

< 1 学年 歴史的分野 >

(1) 単元名

「武士の世のはじまり」

(2) 単元の目標

- ・中世になって、武士が登場し政治の実権を握ることができた背景や理由について、積極的に調べることができる。 【関心・意欲・態度】
- ・中世になって、武士が登場し政治の実権を握ることができた背景や理由について、荘園制度と律令政治の矛盾や、地方の武士による反乱、摂関政治と院政の進展などの要因から、互いに関連付けながら、課題に対する考え方を導き出すことができる。 【思考・判断・表現】
- ・中世になって、武士が登場し政治の実権を握ることができた背景や理由について、様々な資料から読み取り、適切な資料を活用しながら説明することができる。 【技能】
- ・中世になって、武士が登場し政治の実権を握ることができた背景や理由について、前の時代との相違点について、理解することができる。 【知識・理解】

(3) 単元について

本単元は、平成20年版学習指導要領の大項目「(3) 中世の日本」の中項目「ア 鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通じて、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりが見られたことを理解する」にあたる。

「内容の取扱い」の(1)の「ア 生徒の発達の段階を考慮して、各時代の特色や時代の転換に関わる基礎的・基本的な歴史的事象を重点的に選んで指導内容を構成すること」の「時代の転換」に着目させるねらいがある。また、「改訂の要点」では、各時代における変革の特色を考えて時代の転換の様子をとらえ、歴史的事象について考察・判断したことを自分の言葉で表現するという言語活動の充実が求められている。

これまでに、古代の日本では朝廷による律令政治

の成立を学習してきた。中世に入り、武家政治が成立する。なぜ武士が生まれたのか、なぜ生まれた武士が政治の実権を握る存在になったのかについて考えることで、朝廷の政治の変化や地方の動きから武士が政治を行った背景を捉えることができる。そこで、武士に注目することで、時代の転換を捉えることができるようこのように本単元を構成した。

(4) 全体計画 (全5時間)

課 題	配 時
● 学 習 活 動	
<p style="text-align: center;">武士はどのように政治の実権を握っていったのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●これまで学習してきた古代の歴史をふり返り、続く中世がどんな時代だったのかという事前アンケートに記入する。 ●中世に誕生した武士はどのように政治の実権を握っていったのかについて仮説を立てる。 ●課題を追究するために下の小課題を設ける。「なぜ武士が生まれたのか」と「なぜ武士は政治の実権を握ることができたのか」について考える。 ●課題に対する自分の考えを発表する。仮説に対して、資料から根拠をもとに主張を展開する。他の意見に対して、付け足しなどをすることで、考えを深める。 	1 次 (2)
<p style="text-align: center;">源頼朝はなぜ鎌倉で征夷大將軍として政治を行ったのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●頼朝が鎌倉を選んだ理由について、資料をもとに考える。 ●平清盛が太政大臣や天皇の外祖父として政治を行ったことに対比させ、征夷大將軍となった背景について、資料をもとに考える。 	2 次 (2)
<p style="text-align: center;">武士の登場で、当時の文化はどのように変化したのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ●朝廷中心の文化から武士や庶民の文化が広まりを見せたことを、建築や文芸、鎌倉新仏教など当時の様子から考える。 	3 次 (1)

(5) 授業の実際 (第1次 2/2時間)

○教師による指示・発問	●生徒の反応
<p><課題の設定・把握></p> <p>○武士はどのように政治の実権を握ったのだろうか。</p>	<p>(前時の予想を発言する)</p> <p>●貴族を武力で倒して、政治の実権を強引に奪っていった。貴族が没落したので、武士が政治を行えた。</p>
<p><課題の追究・解決></p> <p>○なぜ、武士が生まれたのかな？</p> <p>○なぜ、武装したの？</p> <p>○いつ頃から、武士が登場したの？</p> <p>○出てきたのは分かったけど、政治とどう結びついたので？</p> <p>○信頼を得たとは、誰の信頼ですか？</p> <p>○摂関政治が衰退したのはどうして？</p> <p>○武士が政治の実権を握るのはなぜ？</p>	<p>(予想に対する検証)</p> <p>●「在地領主制武士論」から荘園で農民が武装するようになった。</p> <p>●もう一つ「職能的武士論」から都でも武芸を専門にする人々が登場した。</p> <p>●平安中期から、治安が悪化し、地方政治が乱れた。</p> <p>●摂関政治の頃から。</p> <p>●摂関政治から院政に移行した。武士が信頼され、大きな役割を果たした。</p> <p>●地方で土地をもっていた人たちは、税をとられないように貴族や寺社と結びついていた。だから、武士も貴族や寺社と結びついた。</p> <p>●後白河上皇の信頼を得たのが大きかった。</p> <p>●藤原氏を母方の親戚としない天皇が登場し、独自の政治を行ったから。</p> <p>●院政の前に天皇親政があって、それが院政につながっているんだ。</p> <p>●上皇は天皇の父方の親戚としての力を背景にしている。藤原氏と違う。</p> <p>●院政の後継者をめぐる保元・平治の乱がおき、清盛が一人勝ちした。</p> <p>●藤原氏のように、娘を天皇</p>

<p>○摂関政治の頃、武士と貴族の力関係は？</p> <p>○不等式で表すとこうなりますね。</p> <p>○親政から院政では？</p> <p>○平清盛の頃は？</p> <p>○不等式で表すとこうなりますね。</p>	<p>のきさきにして、自分は外祖父として、太政大臣になっている。</p> <p>●上皇と対立して、院政を停止させている。</p> <p>●日宋貿易にも力を入れ、経済的にも力を握ることができた。</p> <p>●貴族が上</p> <p>●だんだん均等になった。</p> <p>●武士が上になった。</p> <p>●逆転した。</p>
<p><課題の定着・発展></p> <p>○この後、どんな武士が登場しますか？</p> <p>○頼朝はどこで政治を行った？</p> <p>○頼朝の役職は？</p> <p>○征夷大將軍は当時、そんなに高い位ではありません。なぜ、京都を離れたところで将軍として政治を行ったのでしょうか？</p>	<p>(次時への見通しをもつ)</p> <p>●源頼朝</p> <p>●源義経</p> <p>●鎌倉</p> <p>●京都ではないです。</p> <p>●征夷大將軍です。</p> <p>●摂政・関白、太政大臣は貴族の中でも高い位だった。</p> <p>●貴族と同じようにはしかなかったんじゃないか。</p> <p>●清盛が失敗したから。</p> <p>●鎌倉は四方が山だから。</p>

●生徒に配布した資料のタイトル

<p>資料①「在地領主制的武士論」と「職能的武士論」</p> <p>資料②「武士の成長と反乱の鎮圧」</p> <p>資料③「院政と武士」</p> <p>資料④「院政の始まり」</p> <p>資料⑤「白河上皇の政治から2つの戦乱へ」</p> <p>資料⑥「平氏政権の成立から崩壊へ」</p> <p>資料⑦ (1) 天皇家系図</p> <p>(2) 治承3年の政変後の平氏の知行国と荘園</p> <p>(3) 保元の乱の関係者</p>

●資料作成の参考文献

- ・下村效編『日本史小百科「武士」』東京堂出版 1993年
- ・下向井龍彦『日本の歴史07「武士の成長と院政」』講談社 2001年
- ・上横手雅敬/元木泰雄/勝山清次『日本の中世8「院政と平氏、鎌倉政権」』中央公論新社 2002年
- ・古川清行『地方の動きと武士の誕生』小峰書店 2007年
- ・古川清行『平安貴族と武士の出現』あすなろ書房 2009年
- ・本郷恵子『日本の歴史「院政から鎌倉時代～京・鎌倉ふたつの王権」』小学館 2008年
- ・『新編新しい中学社会歴史』東京書籍 2009年
- ・『新詳日本史図説』浜島書店 2009年
- ・関幸彦『鎌倉殿誕生一源頼朝一』山川出版社 2010年
- ・福島正樹『日本中世の歴史2院政と武士の登場』吉川弘文館 2009年
- ・五味文彦・本郷和人編『現代語訳「吾妻鏡」』吉川弘文館 2010年
- ・川尻秋生『平将門』吉川弘文館 2007年
- ・奥富敬之『吾妻鏡の謎』吉川弘文館 2009年
- ・永井晋『鎌倉源氏三代記 一門・重臣と源家将軍』吉川弘文館 2010年

(6) 成果と課題

①生徒の変容 (Kさん)

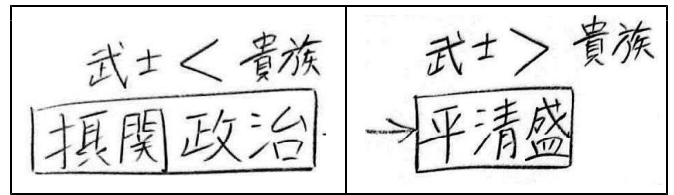
●武士はどのように政治の実権を握っていったのだろうか。

課題追究前
武力で貴族を脅して、政治の実権を奪った。



課題定着後
武士は、地方政治の乱れの中から台頭し、中央の貴族・寺社とのつながりで政治に関わるようになった。院政が始まり、摂関家に対抗できる勢力をつくるために武士という存在が生まれた。やがて、院政をめぐる戦いが起き、武士の力で解決が図られた。やがて、平清盛が出て、院政をおさえ、中国との貿易や天皇との関係から政治の実権を握ることができた。

②板書 (一部)



③言語活動についての成果と課題

「武士はどのように政治の実権を握っていったのだろうか」について、課題追究前では武力を用いて政治の実権を握っていた貴族を排除したという一面からの記述にとどまっていたものが、資料から課題に対する理由を読み取る作業、資料を根拠に考えを書く作業をとり入れ、まとめた内容を発表し、意見をつなげていくことで、課題定着後は朝廷の政治形態の変化、地方政治のようす、武士が朝廷内で権力をのばしたことなど、複数の側面から課題に対しての要因を述べるようになった。

板書では、朝廷と武士の力関係について、不等式の記号を用いてまとめた。その結果、時代の転換という観点から言えば、貴族を中心とする朝廷の律令国家から、中世に入ると地方の政治や武士による政権できた時代というように、以前の時代との対比を明らかにすることができた。

言語活動という側面から、今回の授業では時代の転換の様子をとらえる学習を通して、歴史的事象について考察したことを自分の言葉で表現するという活動には取り組むことができたが、学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動については取り組むことができなかった。今後は、2つの活動を視野に入れながら単元構成をしていきたい。

(授業者：坂田元丈)